



劇団 風の子九州

にっこりぽっかり座☆☆

作・構成演出／中島 研
演出助手／あさのゆみこ



音楽／小池勇治

パンタマントム／藤井郁夫



制作／仮屋祐一

イラスト／山本佐助

にっこりぽっかり座

厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財
厚生労働省社会保障審議会推薦

作・構成演出／中島 研
演出助手／あさのゆみこ
音楽／小池勇治 パントマイム／藤井郁夫
制作／仮屋祐一



★ぎ・からだ

手や顔やからだを見つめなおして動かしてみると…。
(手品いろいろ、ハーモニーあそび、マイムあそび、顔のお面あそび)



★ぎ・ジャバラシアター

一枚の紙をジャバラ折りしたら、
いろんな形ができます。このジャバラを
使ってお芝居をつくってみました。
さて、どんなお話でしょう♪



★おたのしみに★

■子どもの笑いは国境越えた

九州各地で児童向けの演劇活動を続けている「劇団風の子九州」が19日、ソウルのハクチョン劇場で、初の韓国公演をスタートさせた。演目は代表作の「にっこりぽっかり座」。せりふ部分を韓国語に変えたこともあり、躍動感あふれる愉快的な舞台に、韓国オリニ（子ども）の笑いがはじけた。日本文化への抵抗が強い韓国だが、「風の子」の舞台は初日から、この壁の存在を忘れさせる盛り上がりを見せた。

韓国公演はソウル児童演劇祭への招待で、九州での11年間の活動実績が認められた。韓国初ステージは、ちょうど韓国の学校の夏休み入りの日に当たり、親子連れで満席。3人が特訓を受けた韓国語を使いながら、普段通りの生き生き舞台を始めると客席はたちまち笑いの渦。日本の児童演劇が、100パーセント受け入れられた瞬間だった。

(西日本新聞 1996年7月20日)



「にっこりぽっかり座の目指すもの」
劇団風の子九州の第一作目「にっこりぽっかり座」は、1985年に幕をあげて以来、各地で新しい表現の世界をひろげてきました。
役者3人の個性を活かし、ユーモアがあって楽しい作品。身近な物を活かすことと同時に、自分の身体を最大限活かしかける作品。子どもとより多くジョイントし、常に子どもの視点から物を見て、続けられるような作品。「そんな作品づくりを目指しながら、「遊びから創造へ」を核に、何よりも自分たち自身が遊び込んでいくことを課題に創った作品です。この作品を通して、子ども達が自ら創り出す目とエネルギーを育ててくれることを願って公演を続けていきたいと思えます。



劇団 **風の子九州**
KAZENOKO-KYUSHU Theatre Company

〒814-0002 福岡市早良区西新5丁目5-13
☎092-841-7889(代) FAX092-841-7896
http://www.kazenoko-kyushu.or.jp
E-mail: info@kazenoko-kyushu.or.jp

